

2024年1月10日

遺伝子組換えダイズの越冬性試験を終了しました。

2023年7月13日に承認を得た\*「除草剤グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ（承認番号 23-46P-0006）」の栽培試験を、第一種使用規程に基づき、筑波大学 T-PIRC の隔離ほ場（模擬的環境試験圃場 V）で開始した栽培試験において、越冬性調査区画での栽培が終了しました。

現在は、遺伝子組換えダイズを栽培した後の土壌で異なる植物を栽培した場合に生育に影響がないかの評価や、栽培した非遺伝子組換えダイズに遺伝子組換えダイズが交雑したかを調査するため、非遺伝子組換えダイズから収穫された後代種子を栽培して、交雑性を調査する試験を行っています。

材料：除草剤グリホサート及びグルホシネート耐性ダイズ（OECD UI:DBN-09004-6）と宿主である非遺伝子組換えダイズ（品種：Jack）

栽培方法：2023年7月14日、隔離ほ場内に種子を播種した。試験区は、株間 20 cm、畝間 65 cm、1 畝 2m 長の列を 4 列で 1 プロットとし、遺伝子組換えダイズ 4 プロットと非遺伝子組換えダイズ 4 プロットを交互に配置し、計 8 プロットを生育特性区として配置した。また、越冬性調査区として、遺伝子組換えダイズ 2 列、非遺伝子組換えダイズ 2 列の計 4 列の 1 プロットを設けた。

8 月中旬から 9 月中旬の間に開花期を迎え、10 月 25 日に収穫を行った。

越冬性調査は 1 月 10 日に終了した。現在は、土壌への影響評価および後代の交雑性を評価する試験を行っている。